



# 南太秦だより

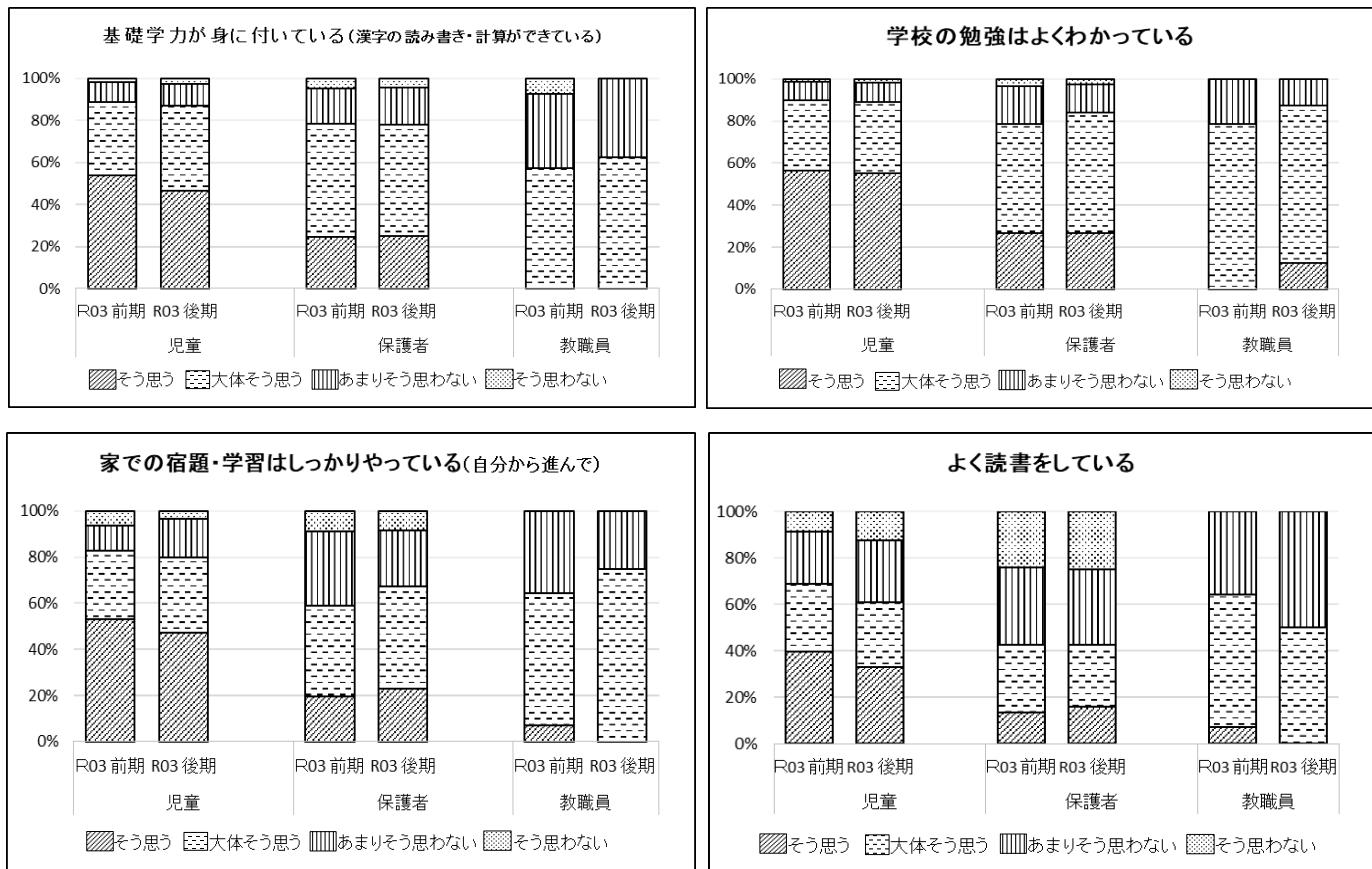
## 令和3年度後期学校評価結果

令和3年度後期学校評価結果 臨時号  
京都市立南太秦小学校  
校長 上田 清乃

「南太秦小学校の教育に関するアンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。アンケート項目を『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』の3つにまとめ、それについて前期と後期の結果との比較を行い、今年度の成果と課題などをまとめています。

### 確かな学力

### 学ぶ意欲をもち、進んで表現する子



### 【考察】学びの喜びを感じられるように

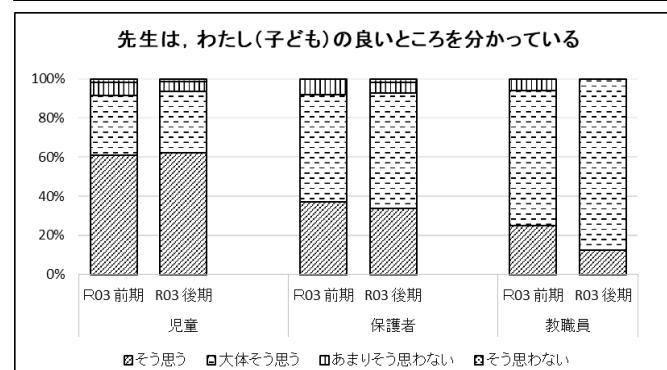
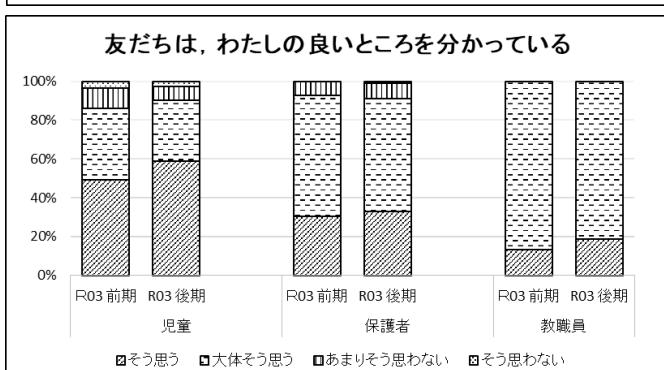
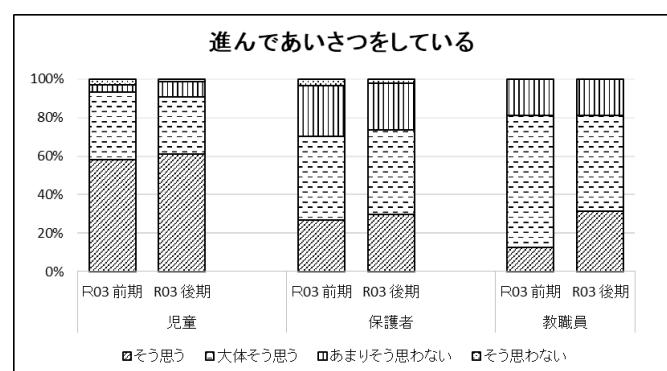
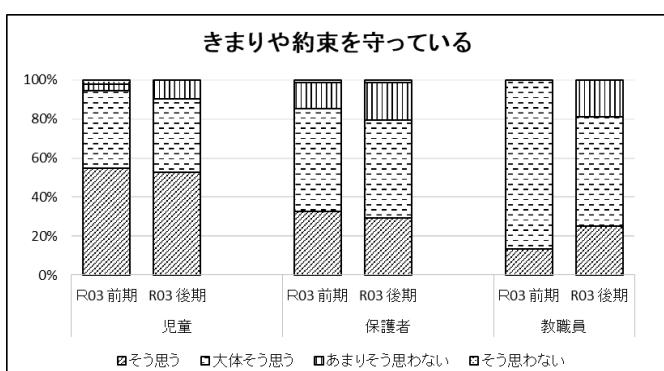
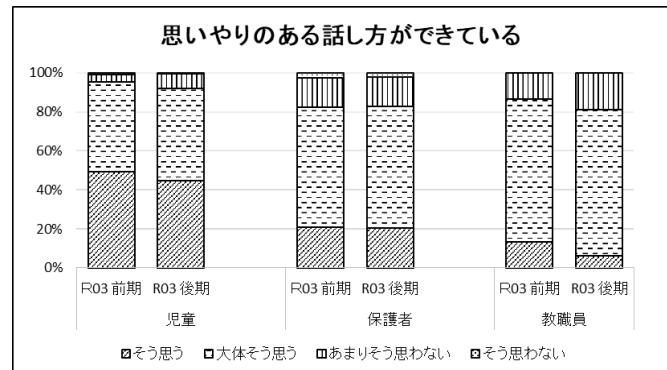
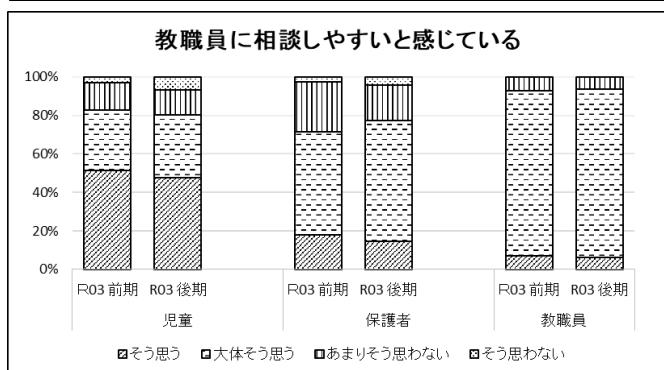
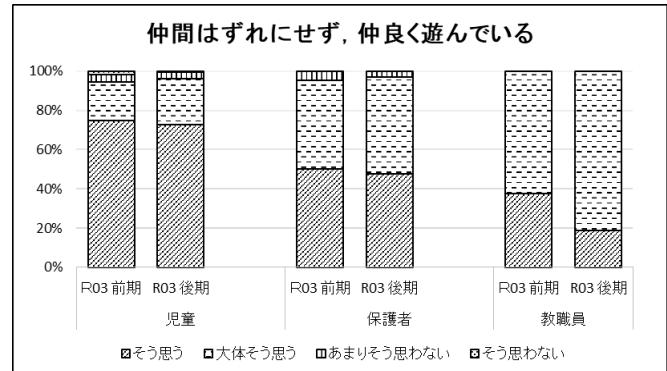
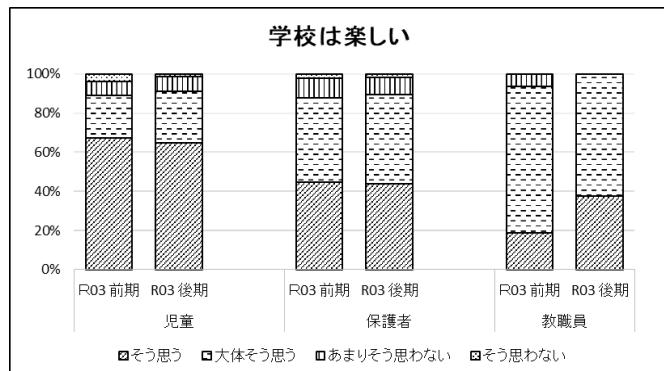
「基礎学力が身に付いている」の項目においては、いずれもおよそ80~90%が肯定的な評価となっています。前・後期の比較を見ると、児童・保護者の評価についてはほぼ変化がありませんでした。教職員の評価は少し上昇しているものの、「そう思う」がマイナス7ポイントとなっており、基礎学力定着においては、今後もしっかりと取組んでいく必要があります。「学校の勉強はよくわかっている」の項目では、児童の変化はありませんでしたが、保護者・教職員の評価は5~10ポイント上昇していました。児童自身が自分の成長を実感し、「できるようになった」という実感がもてるような大人からの働きかけが大切だと考えられます。

「家での宿題・学習はしっかりとやっている」の項目では、保護者・教職員ともに約10ポイントの上昇がみられ、家庭学習の様子をよく見ていただいていることがうかがえます。その反面、児童の「そう思わない」が6ポイント増えており、このことについても、しっかりとできるようになったことはきちんと認めて、言葉で伝えていくことが大切ではないかと考えさせられる部分でもあります。

読書の項目については、毎年課題が残る部分でもあり、今年度においても家庭で読書をしている姿がなかなか見られなかった様子がうかがえます。ただ、学校では朝読書の時間や、課題が早く終わったときの空き時間、低学年では学校図書館へ行く時間の確保をするなど、本に触れる機会は多くあります。放課後や休日などでは、友達と遊ぶ時間や習い事、ゲームやテレビなどに時間を費やすことが多くなることも十分考えられますが、敢えてゆっくりと読書をする時間を家庭内でも取ることも、読書を好きになるきっかけとして有効なのかもしれません。

## 豊かな心

## 多様な他者を思いやる心をもち、人やものを大切にする子



★ 「学校は楽しい」について、肯定的な評価が上昇しています。

★ 「進んでいさつをしている」については、「そう思う」の回答が三者ともに上昇しています。



### 【考察】 経験が心の成長へ

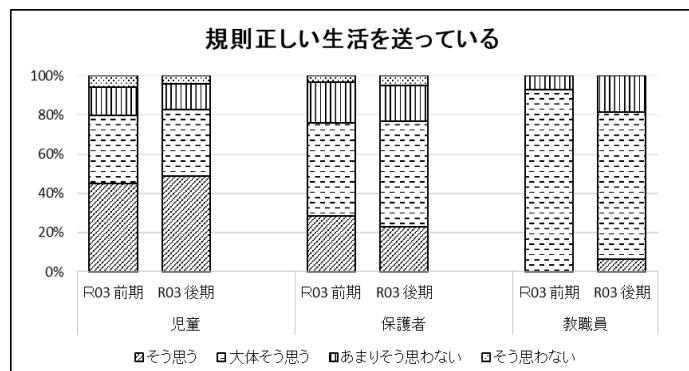
「豊かな心」関連項目の児童の回答をみると、「そう思う」「大体そう思う」の肯定的な回答の割合がいずれの項目においても8割から9割となっていました。特に「友だちは、わたしのよいところをわかっている」の「そう思う」の回答が前期から10ポイント上昇していました。コロナ禍で様々なことが制限される中、工夫してできることを積極的に実施していくことで、子ども達の関わりも増え、お互いの理解が深まっていったのではないかと考えられます。

また、「進んでいさつをしている」については、児童・保護者・教職員の3者ともに「そう思う」の回答が前期よりも増えていました。教職員の「そう思う」だけをみると前年度の8%から31%へと23ポイントも上昇していました。実際に校内で進んで挨拶する姿が本当に多く見られるようになったと実感しています。これは今年度、高学年が挨拶についていろいろ取り組んだことが要因になっていると考えられます。1学期に本校の児童会の児童が中心となって、「挨拶」について取り組みました。正門に立ち、登校時の「挨拶運動」の経験を通して、挨拶について課題があることを実感したうえで、どのようにすれば進んで挨拶ができるようになるのか考えました。正門に立つだけではなく、渡り廊下など校内で立つ場所を増やしたり、挨拶するために校内を歩いて回ったり、いろいろなアイデアを出しながら挨拶についての活動を続けました。また、6年生の総合的な学習の時間等で取り組んだ「一日一善」の取組や、5年生が取り組んだ「学校を良くする取組」など、高学年が中心となり、南太秦小学校より良い学校にしていくという姿を見せ続けることで、他学年の児童へ響くものがあったと考えられます。こうした学校を引っ張っていくリーダーの姿を、次年度以降も引き継いでいきたいと思います。

健やかな体

自分の体を大切にする子

児童の肯定的な回答はやや増加していますが、教職員の肯定的な回答や保護者の「そう思う」の回答が前期より少なくなっています。



### 【考察】 デジタル機器との付き合い方

児童・保護者・教職員ともに肯定的な回答が70%以上となっています。夏休み等の後に実施する生活リズム調べをみても、朝ごはんをきちんと用意していただき、しっかり食べてから登校していることが分かります。ただ、睡眠時間については課題が残る部分もあります。本校の入眠推奨時間は、低学年は9時、中学年9時半、高学年が10時としております。新型コロナウイルスの影響で、「おうち時間」が増え、ゲーム機やスマホ、テレビなどのメディアと触れる機会、時間が増えていることもあります。夜更かし等につながっていることもあるのではないでしょうか。ご家庭でのルールづくりや、スマホやゲーム機がなくても楽しく過ごせる時間(読書、ものづくり、会話等)を持つようにしていくことも大切にしたいところです。

## 自由記述（一部抜粋）

- 学校生活を楽しく過ごしているようで安心しています。家庭では普段からたくさん会話することを大事にしています。
- 新型コロナの関係もあり、親以外の大人や年の違う子どもと接する場面が格段に少なくなっています。もっと社会とつながることができる機会が増えてほしいと願っています。
- 帰宅後の宿題が定着できています。自主学習については内容より終わらせる時間を重視して進めてしまうところがあるので、声かけを時々するようにしています。
- 放課後の遊びについては学年が上がるにつれて気になることが増えてきます。学年が上がると遅い時間まで外で遊んでいたり、ごみの始末をしなかったりすることなどが見受けられるように思います。

## 学校運営協議会理事の皆様より（一部抜粋）

- 低学年と高学年では授業も家庭における学習指導も多少違うと思いますが、この時期は児童本人が授業に真剣に向き合い、その結果を家庭でしっかり復習することが大切だと思います。そのあたりを今後の課題として児童と向き合って欲しいと思います。
- 「基礎学力」と「学校の勉強」については、児童・保護者に比べて、教職員の肯定評価が低いのが気になりますが、教職員の期待値が高いのでしょうか。しかしながら、「学校の勉強」については、教職員の「そう思う」がアップしているのは良い方向に向かっていると期待が持てます。
- コロナの影響で学級閉鎖などが相次ぎ、プリント学習の他、タブレットを使用するなど、子ども達が飽きない学習を考えていたいと思っています。ただ、保護者がずっと一緒に見ている訳ではないので、子どもによって「やってる」「やっていない」の差が出てくることも考えられます。
- 挨拶については、朝の登校指導の中では今回の評価と考察とは多少違う印象があります。見守りの方の感じ方に違いはあると思いますが、しっかり声を出して相手に自分の気持ちを伝えられている子はまだ少ないように思います。
- 人との関わり合いが少なくなる中、人間関係づくりが心配される所ですが、「友だちは、わたしの良いところを分かっている」の子供たちの肯定評価が増えたことは、喜ばしい事です。また、「進んであいさつをしている」の教職員の「そう思う」が2倍になっている事を見ても、良い方向に進んでいると考えられます。
- 思うように外遊びができない中、子ども達もストレスを抱えていると思います。どうしても、スマホやゲームに手が伸びる事は仕方がないですが、しっかりご家庭で話合い、時間を決めてやって頂きたいです。

温かい励ましの声や貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

皆様から頂いたたくさんのご意見は、校内で共通理解を図り、検討し今後の学校教育へ生かしていくたいと思います。今後も家庭・地域との連携を大切にしながら、学校教育をよりよいものにしていきたいと考えております。より一層のご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。